世界婦人

發刊の辭

福田英子

『世界婦人』を發行するに至りし理由は何にあるか、一言にして謂へば、婦人の周圍に纏綿する所の法律、習慣、道德其他一切の事情より離れて、其の天性、使命を研究し、而して其の天眞の性命の存する所に基いて、玆に諸般の革新運動を鼓吹し開拓したいと言ふ希望にあるのです。

學識無く、才能無く、加ふるに、失敗に失敗を重ねたる、罪多き、恥多き身を以て、敢て此の大なる事業を企つるは、誠に嗚呼がましいとは思はるれど、退いて考ふれば、小さきながら、愚かながらに、此事業を經營するが、眞に我が使命と思はれるのです。

又私かに思ひます、近時、女子教育の事業は甚だ隆盛を極むるに當り、青年女子の腐敗墮落が益々甚だしいと言ふは如何なる譯でありますか、畢竟するに、社會の情態の惡しきと、女子教育の不自然なるとに由るのではありますまいか、先家庭と學校とに於て女子の天性を壓塞する、而して僅かに小隙を得て翻を散せんとすれば、ソコには社會腐敗の濁流が漲ぎつて居る、是れ即ち、今の婦人社會が、昏睡するに非ずんば、墮落する所以でありませう。

故に、今日の婦人社會に、清き生命、妙なる光明を投ずるには、先づ女子をして最も自由なる天地に於て其の眞使命を自覺せしめ、以て活潑々たる元氣と希望とに充てしむるにあると思ひます。

乍併、現在社會の狀態を見れば、殆んど一切の事情は、皆な婦人の天性を迫害し壓塞するのであります、されば、勢ひ玆に婦人自身の社會運動が起らねばなりません、是は仲々に永遠の事業にて、吾等の及ぶ所では無いでありましやう、唯だ願はくは、本誌を擧げて其鼓吹者たらしめたいと思ふのです。

かく我が理想する儘を陳べ來れば、其の志望は如何にも遠大にして、其の事業は如何にも神聖である樣に思はるれど、事實は申すも恥かしいのであります、例へば編輯と事務と、一切を妾一人の手にて處理するとは言へ、編輯の如きは其の大半を諸先輩、友人の助力に仰がねばなりません、殊に賴るべき無き貧しき妾は、其の生活費の一部を此の雜誌の收入より受けねばなりません。

されば、『世界婦人』の生命は實に始めより憐れむべきものであります、唯だ一片、忡憂の心ありて止み難きが故に、不肖を顧みず、自ら此の重任に當る次第であります、斯の如き次第なれば、或は二號三號にして斃るゝかも知れません、或は二年三年を續けて益々發展するかも知れません、ソは一に妾が能力の如何と本紙經濟の如何とに據ることであります。

愈々此の事業に着手して、さて前途の遠きを想望すれば、弱くして愚かなる吾は、身の重任に恐れ慄くのであります。

あゝ、江湖の諸兄姉よ、希はくば此の恥多き一婦人が衷情を愍察し給へかし。

サンダストン、ツリユーステル筆

牧場に歩む羊の群

新年所感

○無意味なる新年

人々が益々自然と遠かり自然と相係はること無くなりて『新年』には殆ど何の意味も無くなりました。殊に昨日まで繼續して來た罪惡と過誤と陋習と醜態とを少しも改むること無き今日に於て、ドコに『新年』てふ好文字の意味が輝いて居りましやう。

○輕薄なる新年

新年第一に眼に着くものは借金取りの顏色であります、昨日までは、殘忍、冷酷鬼の如き角面を振り立てゝ、雷の如き聲で怒鳴り込んだ其の沒趣味な醜面に、俄かに改まつた輕薄な笑を湛えながら『ヘイ、明けましてお芽出度う』

○陋劣なる新年

富豪に齎はる、豚の如き會社員、銀行員等と權門に尾を振る犬の如き官吏、政治家、御用商人等とが、其の醜陋卑劣なる計策を施すに最も便となすは即ち此の『お芽出度う』の新年にあるのです。一年中の阿諛、賄賂、コムミッションは此機會を利用して行はるゝのであります。

○アルコールの新年

銅の藥罐に湯のタギツた樣な顏をして、異臭の蒸氣を吐きながら蹣跚めいて行く樣は、恰かも眠ぼけた猩々が豚小屋から迷い出たやうなもの、アルコールの新年、醉どれの新年、殘虐非道なる日本に於ては、憐れむべき彼等は僅かにアルコールの中に其の血路を發見して居るのです。

○淫靡なる新年

曰くカルタ會、曰く新年宴會、皆な是れ淫風の吹き誘ふ所、魔風戀風の吹き誘はるゝ所、青年男女が一生を過まり、一身を過まり、友人を過まり、父母に背き、社會を毒するの禍根、多くは皆此間にあるのです。

花賣の歌

有香

此は歐洲の早咲、北地の晩開、世の讃美の一輯、花賣乙女の名を露女と申して

おはなーやおはな　花召して。
大和なでしこ　さゆり姬
これはやさしい　おとめばな、
艶なところを　買ひませや。

おはなーやおはな　花召して。
あざみ山ばら　鷄頭女史
これはけなげな　をみなばな、
雄々しいとこを　買ひませや。

おはなーやおはな　花召して。
蓮しらうめ　黃菊孃
これはきよけき　をとめばな、
凜としたのを　買ひませや。

おはなーやおはな　花召して。
色も　香も　さりながら
氣品のたかき　をとめばな、
はやく買ひませ　日が暮れる。

○次號豫告

同情ある諸兄姉より御寄送下つた原稿が非常に多かつた爲めに、惜しいと思ひながら次號に廻はしたのと、特に次號に御約束を願つたのと、お詫ながら、左に廣告して置きます。

△西洋の禮式　石川半山
△結婚後の日本婦人　羽仁もと子
△日本料理　嘉悅孝子
△北山おろし　泡　雪鬢
△短篇小說　二葉亭四迷
△喜ぶべき現象　永島永洲
△生活の[illegible]　上司小劍
△國際[illegible]　木下尚江
△春のこゝろ　小野有香
△世界婦人の發刊を祝ひて　蘭　なみ子
△美はしき奴隷よ　山口孤劍
△題未定　幸德秋水

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

婦人の勢力

板垣退助

人の斯世に生れて、目に美色を見、耳に美聲を聞き、其心を美にし、其志を淳にし、遂に進んで物の醜美善惡を識別し、美善を取りて醜惡を斥くるの力を養ふは、主として其初度の教育則ち慈母の膝下にある時に於てし、斯くて人は一家團欒、和氣靄々たる間に在て、人の人たるの道を學んで、社會の一員となるに差閊無きに至る。

蓋し人間の保育と其初度の教育は、家庭を俟つて始めて行はるゝものにして、家庭の事は專ら女子の力に依らざる可らず。如何なる英雄豪傑も、一人として女子の温かき懐に育てられざるもの無く、社會に於ける女子の地位は極めて重きものあり。

且それ之に加ふるに、男子は常に外にありて、社會競爭の衝に當り、時には感情の激する所、往々にして常軌を逸するの場合無しとせず。而して此間たゞ家庭のある有りて、其主人公たる女子の、或は母となり妻となり姉となり妹となりて、之を慰め之を勵まし、其激したる氣を和らげ、其疲れたる精神を振ひ起さしめ、男子をして其勇氣を倍して再び生活の戰場に立つて奮闘することを得せしむ。之を譬ふれば家庭は猶ほ軍港に於ける船渠の如きものにして、かの戰闘より歸來したる軍艦が、船渠に入つて其損傷を補ふと同じく、人は嫉妬、怨恨、憤怒の戰場に立つて、精神と體力と共に困憊疲勞するに至るや、家庭てふ船渠に於て之が修繕を爲すの要あり、而してこれ獨り家庭の能くする所にして、斯くの如く人を生み人を育つるのみならず、其育てられたる人間を補ひ助けて、之が元氣を鼓舞し、再びこれを新たなるものたらしむるも、亦女子の力たるに外ならず。

其他、風俗を敦くし、社會親睦の基を建つるも亦女子の力にして、男子を助けて内顧の憂無からしめ、以て社會に立つて充分に其驥足を伸ばさしむるも亦女子の力なり。則ちかの勇士の戰場に赴くに際して、健氣なる母妻姉妹の奬勵の言を以て之を送ると、徒らに俗情に殉へて別を惜み、爲に男子の志を挫折せしむると、其差果して如何。然かもこれたゞ干戈の戰場に於て然るのみにあらず。平和の戰場に於ても亦然る也。

然りと雖も斯の如きは女子の常經のみ。平時に在ては女子は一意專念以てこの天職に殉へて、これと始終すべきや論無しと雖も、一朝變に處する場合には、女子も亦國難に趣かざる可らず。而して變に處するの道は之を常時に於て學ぶの必要あり。是故に女子を束縛して政治問題に干與せしめざるが如きは、誤れるの甚だしきものにして、女子をして社會の活問題に對して風馬牛たらしめば、何を以てか其子弟を教育し、其夫兄を助けて内顧の憂無からしむることを得んや。既に子弟を教育するを得ず、また内顧の憂を除くを得ずとせば、更に進んで國難に殉するが如きは到底望み得べきに非ざる也。是故に予は言はんと欲す。女子は宜しく其天職を守るべし。然かも其天職の一部として社會の問題に通曉するを要すと。蓋しこれ女子をして男子と同じく自覺心を養はしむる所以にして、予が女子解放の主意實に玆にある也。

福田英子女史は予の舊くより識る所、頃日雜誌『世界婦人』を發刊するに際し、予の一言を徴せらる、よりて女子問題に關し懐抱する所の一端を述べて、祝辭に代ふと云爾。

> 一杯の珈琲に少許の砂糖を加ふれば其味美なれども、之に鹽を加ふれば全く其香しき味を害ふものである。たとひ幾多の砂糖を混すればとて其味を舊に復するは難い (マートン)

海内時事

○豫算總額五億九千萬圓

戰後の財政! 是れ日本國に民たるものの何人も憂慮する處なり、内閣會議の結果、豫算は膨脹して五億九千萬圓の巨額に達せりと云ふ、固より一般に豫期せし處なるべしと雖ども、疲弊衰頽、貧弱を極むる人民を導きて、如何に此の難關を切り貫くべきや、富豪住友氏を主人とせる西園寺公のとなれば、少しは急場の遣繰も着くなるべし、然れども、何れにしても最後の負擔を負はしめらるゝものは實に勞働に衣食する吾等平民なり、殊に吾等婦人なり、斯くて婦人の多くは浮世の風に得堪えずして、暗黑の荒野に驅逐せらるゝ也、噫、日露戰爭が產める醜業婦、墮落婦人、幾萬ぞや、噫、豫算額五億九千萬圓! 依て以て收穫する所は幾萬の醜業婦のみ。

○女教師增加方針

文部省にては目下全國教員不足數約三萬人の補充につき調査中なるが、一般男教師は勿論女教師の增員をもなさしむる方針の由

其方法として先づ師範學校女子部生徒の增員を計り、各地方の狀況に依り、未だ同校設置の運に至らざる處は高等女學校にて教員養成をなさしむるやにて、高等女學校の教員養成部設置に就ては、既に從來より施行せる向きも尠からず、現に北海道、神奈川、青森、福井、鳥取、山口、大分、宮崎、沖繩の諸縣道にては補習部に教員養成所を設置し、卒業生に向ては夫々規則により尋常科正教員の免許狀を與へつつある由、此上更に女子師範及び高等女學校にも一層其生徒數を增加せしめば、數年間中には大半不足數を補充し得べしとなり

斯くて婦人勞働者は男子勞働者と相競爭する也、而して遂には男女共に賃銀の奴隸となり了する也、婦人が漸く驥足を伸し來れるは素より祝すべし、遂に再び奴隸たるに終るとせば眞に痛歎すべき也。

○議會將に開けんとす

昨年末に召集せられたる帝國議會は、本月中旬には開會せらるべしといふ、誠に太平呑氣なる世なる哉、選擧權も有せず被選擧權をも有せざる吾等には、齒痒く思はるれど致方無し。

○古河家の寄附

文部省は明年度に札幌農科大學、及東北理科大學設置の經費豫算を計上せるが、古河家にては之を傳聞し、其建築費全部百六萬圓の寄附を文部大臣に申出たる由、元來大學は貴族富豪の子弟を教育する所なり、勞働者の汗血化して古河家の寄附となり、貴族富豪の教育費となり、平民壓制者の養成費となる、子を持てる平民婦人は自ら深く警めて可なり。

○伊藤統監の歸朝

伊藤統監は今歸朝して、大磯と東京との間を往來す、知らず、此の間に於ける憐れなる朝鮮國民は果して如何の感かある果して如何の謀をか懐く。

○女子學院の燒失

去月十日午前四時頃麹町區上二番町なる女子學院は火を失して全燒に歸せり、多くの貞淑健良なる子女を養成せし名譽の校舍は空しく灰土と化す、惜しむべき哉。

○韓國婦人の來朝

今回日本觀光の爲めに來朝せる韓國内部大臣李址鎔及同夫人は、去月四五日頃東京に着せしが李氏は韓國の貴族にして現に皇族の列次にあり、夫人は京城婦人界に於ける進步主義及親日主義の人にして夙に京城婦人會の總裁及日韓婦人會の副總裁として同地交際社會に於ける無冠の女王なり、又夫人は公共事業に貢獻する所あり遂に日本婦人を聘して日本語を自由に操り得るまでに進步したるを以て、平生の素願たる日本漫遊を思立ち主として日本に於ける宮中の制度、及貴夫人の位置等を觀察する審にて、今回の同行者に特派大使として來朝する貴人李氏及副使徐城尹朴義秉氏及朴夫人等なる由、憐れむべき朝鮮に於ても、貴夫人は斯の如く紙蝶の生涯を送り居る也。

●政治上に於る婦人の要求

婦人が社會國家の一員たるに於て、男子と異る無きは何人も疑無き所ならん、婦人と雖ども若し土地家屋等を有すれば、租税を國家に納付するの義務あること男子と異らず、罪を犯して刑罰を科せらるること男子と異らず、されば婦人が政治の如何によりて直接に利害を蒙ること男子と些の相違無し、然るに我が治安警察法が、獨り婦人よりして政治的集會結社の權を奪ひたるは、無法、沒條理の甚だしきものと謂はざる可らず、されば是れ迄で、此の當然の權利の要求が婦人自身の口によりて大いに叫ばれざりしは、吾等の深く憾みとする所なりき、然れども自然の要求は遂に其の聲を發せざる能はず頃者、社會主義運動者として世に其名を傳へられたる堺ため子、幸徳千代子の二氏及び本社の福田英子等率先して、政治上の自由を得んとするの請願を帝國議會に提出せんとて、其の準備運動に着手せり。吾等は信ず、如何なる方面に働きつつある婦人と雖ども皆な等しく此の運動を爲すべき權利と義務とを有すと、參考の爲め、治安警察法第五條の規定を左に摘錄す。

左に掲ぐる者は政治上の結社に加入することを得ず

一、現役及召集中の豫備後備の陸海軍人
二、警察官
三、神官神職僧侶諸宗教師
四、官立公立私立學校の教員學生生徒
五、女子
六、未成年者
七、公權剝奪及停止中の者

女子及未成年者は公衆を會同する政談集會に會同し若くは發起人たる事を得ず

吾等の今ま請願せんとするは、即ち右の如く『●』點を付したる文字の削除にあり、諸方にある同胞諸姉よ、希くは吾等が僭越の罪を宥して此の運動を助け給はんことを、而して一名にても多くの請願者を出さしめ給はんことを、

△請願用紙御入用の方は本社に御申込みを乞ふ、枚數多からざれば早速御送附申すべし

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

洋行雜誌

石川半山

西洋の風俗習慣等に關して、洋行中に見聞した事を少しくお話し申しますが、先づ流行の帽子に付て少しくお話申します、帽子の形は各國に依て、違ふので、甲の國で流行する帽子は、乙の國へ持て往くと全く流行遲れとして笑はれる樣に思はれます。

昨年七月に米國へ往く前に、日本に於て最新流行の山高帽子を買ふて之を被ぶつて往つたが、ニウヨルク市あたりから、僕と全權大使の小村君の帽子が問題となつた、山高帽の事を英語でダルビー、ハットと云ふが、小村君や僕の被ぶつて居る帽子は形が甚だ可笑しいと云ふので、之を改良せざる可らずとの議論が起つた米國在留の日本人中で頻りに僕等の帽子の野蠻なるを笑ひ、甚だしきは日本の新聞記者がコウ云ふ形の可笑しい帽子を被ぶつて居るのは國威國光に關するとて、手厳しい忠告を試みたものも有つた。依つて僕も止を得ず、米國に於ける最新流行のダルビー、ハットを買ひ、又オートモビールにてミシガン州の田舍を旅行した時は、一のキャップを買ふた、此キャップは露國全權委員ローゼン男爵なども被ぶつて居て、頗る面白い形だから、之を買ふて汽車汽船自働車等の旅行中に被ぶつた。

然る處十一月に太西洋を渡て英國の倫敦へ往くと、僕の米國で買ふたダルビー帽は最早や役に立たなかつた、形が可笑しいと云ふので、再び國威國光問題が起らんとした、依て又止むを得ず世界に有名なるクリスチイ製造の最新流行のシルクハットを求めて、之で倫敦だけは濟んだが、十二月に佛國の巴里へ往くと、シルクハットの形か、英國の流行とは違ひ、巴里の流行は一種特別で、クリスチイのシルク、ハットも最早や役に立たなかつた。

それから日本へ歸つてから、彼の米國に於て求めたるキャップを被ぶると、其キャップの形が電車の車掌の被ぶる者と似て居るので、屢々輕蔑を受け、友人で僕のキャップの改良を忠告したものも多かつた。

又英國は數年前ヴヰクトリア女皇在世の頃迄は、シルク、ハットが盛であつたが現皇帝エドワード七世の即位以來、英國の基礎をなせる自由貿易と甘美なる家庭が、動搖を初めたと同じ比例で、シルク、ハットが衰へた。然るに此英國で衰へ始めた所のシルク、ハットが、近年歐洲大陸及び米國に流行し、特に東洋へ流行して來たのは奇妙と謂はざるを得ない。

日本へ歸つて見て、シルク、ハットの多いのは意外であつた。諸方の園遊會へ往て見ると大多數はシルク、ハットである。尤も亂暴な先生達が、雨に逢ふて亂れたシルク、ハットを平氣で戴いて居るのをも見るが、兎に角此シルク、ハットを戴く者の多いには一驚を喫せざるを得ない。僕はある西洋人に向ひ、シルク、ハットは久しく英國倫敦に滯在せしが、近年世界漫遊を始め、遂に東洋にも來るに至り、其爲め倫敦は却て寂寞となれりと言つたことがある。

これは唯帽子の流行に關するお話ですが、それ故に日本の最新流行は決して世界の流行に一致して居ないといふワケであります。

心の貧しき者は福なり　天國は即ち其人の有なればば也
柔和なる者は福なり　其人は地を嗣ぐことを得べければ也
心の清きものは福なり　其人は神を見ることを得べければ也
和平を求むるものは福なり　其人は神の子と稱らる可ければ也

海外時事

○英國婦人の選擧權運動

近來英國婦人の選擧權運動は中々盛なり昨年十月二十三日の夕方此等婦人の一群下院の議員控所に入り込み、議員に面會して所志を陳じ、大廣間に於て選擧運動の集會を催ほす杯形勢甚だ穩かならざるより、警吏に依て院外に引き出されたり、此等婦人の中十一人は警察署に拘引せられぬ、廿四日此等十一人の婦人はウエストミンスター警察署長の前に引き出され例の如く訊問ありたる後、各々五パウンドの罰金と六ケ月の閉居を命ぜられしが彼等は六ケ月の閉居を拒みし故、警察署長は六ケ月の閉居の代りとして十パウンドの保證金を科料として納付すべきを命じ、若し夫れを拒むならば二ケ月の入牢に處する旨言渡せしも、婦人等は何れも此判決に服することを拒絶せり、此等婦人の中シルグヰヤ、パンクヒユースト孃の如きは特別にシルリングの科料か、否らざれば十四日の入牢に處する旨言渡されしも又拒めり、此等十一人の熱心なる婦人の名は左の如し。

アンニー、ケンニー孃　テレサ、ビルリングトン孃
ヨイアン、サンダーソン夫人
ドラモンアフイオル孃
ガール、ルブ孃　アイレン、ミルラー孃
ベチツク、ローレンス夫人　パウドコツク夫人
アデラ、パンクヒユースト孃
シルゲイヤ、パンクヒユースト孃
イ、エチ、マルチン夫人

コブデン、アンウイン夫人、シツカート夫人等は何れもシルグヰヤ、パンクヒユースト孃の爲めに利益の證言を爲し、尚は英國婦人の同情は此等婦人に向つて注がれつゝありと云ふ。婦人の運動としてはやゝ粗暴の嫌はあれども、此れアングロサクソン婦人の本色也、吾人は英國婦人が權利の要求に向つて邁往直進する意氣を歎ず、敢て問ふ我大和島根の處女子此の勇氣ありや。否や。

○一夫一婦は自然の法則也

近刊の『時事評論』紙上に於てグレゴリー氏は有益なる統計を擧示して、世界に於ける男子と女子との出產は殆ど同數なるが故一夫一婦は最も自然の法則に叶へるものなる事を論ぜり、今左に其の統計を揭ぐ

國名	男子	女子
大英帝國	二五、六三三、三三一	二六、六九二、六〇三
北米合衆國	四四、三三九、〇〇七	四三、六四一、八六一
歐大陸	一五四、〇〇七、六四〇	一五八、五五〇、一八八
メキシコ 南亞米利加	一七、八一一、三二一	一七、四五四、六二一
濠西亞	[illegible]、三三九、八八六	[illegible]、一六八、三四七

右白晳人種の合計は男子の出生二億四千六百四十七萬百六十八人に對する女子の出生二億四千八百六十九萬九千八十八人にして平均男子百人に對する女子百一人の割合なり、尙北米合衆國に於ける黑人の統計は同じく男子百人に對して女子百一人の割合なり、而して亞細亞に於ては我國の出產統計は男子百二人に對し女子百人の割合にして、印度と錫蘭に於ては男子百四人に對して女子百人の割合を示せり如此に男女の出產數殆ど同じきにも拘はらず、男女の獨身者加ふる多きは何ぞや、一は所謂る文明の進步に伴ふ生活の困難にして、他の一は今日の權力と富貴とを併せ有する少數の一階級が一人にして多くの女子を占有する一夫多妻制度の故也

○正直なる婦人

亞米利加のメリー、イ、バード孃は天文學に於て最も深く造詣する所あり、過去廿年間マサツチユセッツ州ノーザムプトン幷にスミス學校の觀測所の管理者として亞米利加學界に頗ぶる令名ありしが、社會主義的の意見を有するの故を以て學校の管理者と衝突し、此斷然職を抛ちたりと云ふ、此の學校はカーネギーやロックフエラーより資金を受け居りて常に此の二大富豪の鼻息を伺ひつゝあり、バード孃の辭職の原因も主として此の醜態に憤慨したるが爲めなりと云ふ、孃の如きは洵に正直にして意氣盛んなる婦人と云ふべからずや。權勢や資金に眼昏みて純潔と貞操を泥土よりも輕んづる迷惑なる我國の女子少しく此の女丈夫の意氣に倣ふべきなり。

○婦人賣買禁止列國大會

都下新聞紙の報ずる所によれば

醜業に從事せしむるを以て目的とし婦人を賣買する惡風を根絕せん爲め列國代表者は既に二回其大會を開催したるが昨年十一月廿五日佛國巴里に於て其第三回を開催したる由

吾等は本會の目的が速かに成就せられんことを切に希ふ者也、然れども彼等は如何にして此の惡風を根絕せんとするや、畢竟するに彼等が惡弊の因て生ずる根源を審かにせるや否やが問題なり。吾等は信ず、私有財產制度の現存する限り、醜業婦の根絕せざるは濱の眞砂の如くなるべきを。

御祝

田中正造

世には龍頭蛇尾多し、回顧二十年、已前大阪國事犯問題の諸士今何處にか在る、國會開設請願者今何處に在るや、西鄉を賊と呼べる者今何處にか在る、皆龍頭蛇尾なり。

今の政黨も亦龍頭蛇尾なり、此時に當りて獨り卓然蛇尾たらざるのみならず、日は一日より堅實にして主義の益々鮮明なる福田女史一人のある在るのみ。

餘り御氣の毒ですから、今の男子として言はず、只女子として福田氏を言ふのみ、福田英子氏の忍耐なる、假令ひ龍頭には非らずと雖も、百難を排して蛇尾に終らざる女史の性格を敬愛す、謹んで世界婦人の發行を祝す。

丙午十二月九日谷中村惨狀地にて

正造

世界的婦人の出でんことを望む

安部磯雄

吾人の理想を言へば何人も出來得るだけ博く且つ深く學問を爲し、健全なる體格と高尙なる品性を兼備して世界的舞臺に活動せねばならぬと思ふのであるが、今日の社會組織に於ては甚しき貧富の懸隔あるのみならず、體格の不完全なるが爲に充分なる活動を爲し得ざる者の多きは已むを得ぬことである。故に經濟上の餘裕なく、强壯なる體格のなき人に對して世界的活動を求むることは無理なる注文であるかも知らぬ。殊に婦人の多數は習慣上より、或は體質上より、社會の裏面に於て働かねばならぬ運命を有して居る。別言すれば良妻賢母主義の敎育は恰も彼等に適當して居るのであらう

然れども凡ての婦人をして悉く良好賢母たらしめんとするの難きは、猶ほ彼等をして悉く世界的婦人たらしむるの難きと同一であらう。吾人は高等なる敎育を受くるの機會さへ有せざる婦人に向つて多くを望むことは出來ないけれども、多數の婦人中には世界的事業を爲すに足るべき敎育を受け、且つ便宜の位地に立てる人が決して少くないと思ふ。貴族富豪の家に養育を受くる所の婦人は言ふに及ばず、苟くも衣食住の爲に心を勞するの必要なき婦人は世界的舞臺に活動すべき機會を多く有して居るではないか。吾人は決して彼等に獨身の生涯を送れよとは言はない。彼等の事業は其獨身たると否とに拘はらず充分に成し遂げらるゝのである

吾人は婦人の事業として、而も世界的舞臺に活躍し得る所の事業としては文學に優るものなきを信ずるのである。昔時も今日も文學を職業とすることは頗る困難であるが故に、若し衣食の資に窮せざる人が文學の爲に力を盡すこと、ならば比較的價値ある著作を見ることが出來るに相違ない。近頃米國に於て婦人の文學者が非常に增加したといふことを聞いたが、これは一家庭を經營せる婦人が其夫に比して多くの閑暇を有して居るからである。敎育ある婦人は決して家庭の經營のみにて己が心を滿足せしむることは出來ない。彼が數人の僕婢を使用し、文明の器械を利用し得る限りは每日二三時間を文筆の爲に費し得ることは明である。斯の如き位地に在る婦人に對して文學的大著作を要求するのは果して不適當であらうか

吾人は必ずしも婦人が外國語に熟達することを以て文學的成功の必要條件とは考へない。若し彼の著作にして世界的のものならんか。其は忽ち各國語に飜譯せらるゝに相違ない。然れども吾人の希望を言へば、將來の婦人が一二の外國語を自由に讀み、少くとも一の外國語を書くこと恰も國語の如くなることは、彼の世界的活動に大なる助を與ふることを自覺せんことである。婦人は語學に熟達することに於て決して男子に劣らない。若し妙齡の時に外國語を學ばゞ、これを其國語の如く自由に使用し得るに至るは明である。我國の婦人に斯の如き功名心が今起らぬ道理は決してない。若し社會が其子女を敎育するに遠大の考を以てしたらんには、將來世界的婦人の輩出を見るに至るやも計られない

『世界婦人』の發刊に臨み平常婦人に對して懷ける所の理想を述べて祝詞に代ゆるのである

> 人自ら信仰ありと言ひて、若し行爲なくば何の益あらんや、信仰いかで彼を救ひ得んや

嗚呼聖なる戀よ

木下尚江

△愛の花は戀に開きて子に結ぶ、去れば戀に破れたる婦人の傷は終生癒えず、痛ましき望み常に其眉に在り、子を抱かぬ胸の寂しさよ、其の笑顔にも絶望の浪響く、

△惡しき子ならば生まざる方可なりと悟り顔に言ふものあれど、予は誠に之を疑はしく思ふ、惡しき子にても無きには優れり、何れの處にか全く善き子あらん、他の見て惡しき子よと擯斥する所にも、同情厚き母の目は更に其の深き底の奥より我子の善き所を發見することを得るなり、

△親は子によりて生く、子は親の生命なり、凡ての人は永遠の祖先の生命を受けて、更に之を永遠の子孫の生命に傳ふ、吾人はこゝに永遠不滅なる肉の靈を見るなり、

△去れば無意義の娛樂として戀情を弄ぶものは何處の罪の子ぞや、更に此の戀情其物を羞辱として刑するものは何處の罪の子ぞや、是れ罪の結晶なり、未だ生れざるに旣に罪の子たる也、若し戀情を罪と信ずるものあらば、速に自ら縊死せよ、

△戀情は吾人生物が永生の聖き糸なり、吾人は決して之を汚すとあるべからず、

△日本に於ける今日の根本的缺乏は、此の聖なる戀情の高義未だ毫しも發揮せられざるに在り、悲しまざるべけんや、力めざるべけんや、

◎田園の趣味

エデンの花守

●春の七草

七草と申しますれば、國々によつて種々の習慣がありませうけれど、▲昔のやうに故事や儀式ばかりを云つて居ては面白くもなく、又たなんとなく清新な興味が起りませぬ。けれど百花園のやうに▲七草を手提げにして可愛ゆらしく植え込みますと、實に優さしく美くしいのであります。ですから正月の園藝として、七草の花壇又たは七草の植込を御自身でなさらんことを皆樣にお奬め申します。▲一體此七草は何かと申しますれば『せり、なづな、ごぎやう、はこべら、みみなぐさ、すゞな、すゞしろ、これや七草』といふ古歌から來たのであります。さらば此の

▲春の七草の濫觴　即ち由來はどんなことかと申しますればなんでも唐から鬼車鳥といふ毒鳥が來る故七草の菜、即ち七草を叩き、鉦、太鼓で追ひ拂ふといふ▲一種の迷信　であります。それで「唐土の鳥が日本の土地へ渡らぬ先にストトントン」などと騒なことを唱へながら俎の木の板に載せ、玉杓といふ樹の枝で七草を叩いたものだそうです。これは現在▲静岡縣にもある風俗　だそうで此の毒鳥を鬼車鳥と申します。静岡の七草叩きの歌は「七草なづな唐土の鳥が渡らぬ先にストトントン」といふ各地の傳播まるものだと聞きました。

●七草の作り方

七草の中には芹だとか薺(すゞな)だとかいふやうな蔬菜もあり、又た可愛らしい花もありますから次に其の栽培法をちよつと申上げませう

▲ゴギヤウ(御行)　之は母子草といふ[illegible]もぞに交つたりなどする野草で、春早くから芽を吹き三四月黄色の小さい花を咲くものです。葉は白い柔い毛に包まれて居る白ッぽいのですが、之を嫩葉の中に摘んで餅や團子に交せると、色を美くして良い香氣と味ひとを增します。作り方は秋の中に野を探し其土に植ゆれば寒くても丈夫に育ちます。唯だ餘り水を遣ると却つて育ち難いから氣をつけなさい。

▲ハコベ(繁縷)　別にハコベラとも申し小鳥の餌にしたり嫩葉をひたし物にしたりなどいたします。なほアサシラゲ、骨接草などとも申し動物の怪我した局部へ之が煮汁をつければ治ると云ひます。栽培法は前同樣ですれどゴギヤウより濕氣が多くなければ育ち難いし又寒氣にも弱いやうです。

▲ホトケノザ(佛座)　紫草科に此の名の草はありますれど、實は田平子又は土器菜といふものです。小さく地面に平つたみついて生える草、中國地方では正月に紫の小さな花を見せて居りますれど、雪の降る地方ではそういふ譯に行きません、栽培法はゴギヤウと同じです。

▲スズナ(菘)　蕪の一種の唐菜のことで蕪菁に似寄つた漬菜であります。併し今では蕪菁とみてもよいでせう。これなぞは種類が多いですれど先づ小蕪菁は最も似合いませうが、それは十月頃蒔いて置き十一月の末頃盆に移すとよろしい。普通のは改めて本欄に栽培法を書きます。

▲スズシロ(清白)　これは大根を七草に用ゐる時の名で、種類は細根大根の十月蒔を、畑中で一度根を土中一二寸の下方で切斷し置き、それを後に鉢へ取らねば工合よく行きません、種類の多いこと栽培法を後ほど申上ぐることも前と同じにしませう

▲セリ(芹)　野の芹でもよいが柔いのはオカゼリ又は畑ぜりといふものです、之は全く乾燥のところではイケません、肥料もやらねば能く芽吹きしません。

▲ナツナ(薺)　例のペンペン草又は三味線草と申しますもので、路傍にも多く生えて居るから、引ツこ抜いて鉢へお移しなさい、しかし野にあるとは云ひ根を痛めたり水を遣らなかつたり爲れば育ちません。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

「世界婦人」の發刊に就て

坂崎紫瀾

夫れ今後の世界的日本時代に際しては、宜しく世界的日本國民を育成せざる可らす、殆んど全國に到る處支部を有せる、愛國婦人會の如きは、日露大戰役の風雲に覊して、能く其の無前の成功を收め得たりしも、若し其の提唱者たる奥村女史にして、尋常一般良母賢妻の隊模型を躍出せしめざらん乎、豈に上下を感動する此の如きの偉大を致さんや、試みに看よ、今や一面には尚ほ女子の政談傍聽を禁する法令を現存しながらも、他の一面には偶ま衆議院候補の細君が、選擧場裏に奔走するを艶說するが如き、新陳代謝的の過渡中に在り、豈に噴飯すべきの社會現象にあらずや、福田英子女史、曾て板垣伯の命により、來つて我家に寓し、一時師弟の禮を執りしも、當年自由黨燕趙悲歌の氣風は、女史として讀書に安する能はす、身を脫して獨立的活躍を試みんと擬し、遂に爆彈を投じて、所謂大坂國事の群に投せしなり、今や、其の一未亡人たるの境遇に蟄伏するを甘んせず、蹶然起て「世界婦人」なる一雜誌を刊行せんとす、余も亦其擧を偉とし、玆に平生の所見を寄せ、以て祝規に換へんとす、今の日本女子にして、稍世界的思想に近づかんとするものは、唯其の報酬を目的する、學校女教師及び女醫師の西航せる一類あるのみ、其他は徒らに粉飾的慈善事業に從ひ、以て女子の天職玆に盡るとなす、何ぞ愛涙の源泉の深からずして、其俠血の流注の微温なるや、嗚呼彼の歐米の女子の如き、不幸にして一朝失戀の苦境に沈淪せん乎、敢て自殺するが如き消極的行爲に出です、其の反撥力は猛然として、忽ち宗敎上の貢獻に轉進し去り、其の全生涯を海外の傳道に捧げんと決心し幾多金髮碧眼の女丈夫は、ミスと稱して我邦に來り、熊本癩病院の如き偉業を建るにあらずや、且つ英米の都市に、日本學生と日本水兵の慈母と呼ばる、老夫人あるを聞くに反して、我が貴女の多くの階級中に於て、未だ支那印度等の外國留學生、及び露國脫走の革命黨員に對して、高潔なる世界人道的同情を表したる者わるを見す、是れ寧ろ我が日本女子の耻辱にあらすや、抑も英子女史、亦囹圄中に在りて堪ゆべからざる失戀の苦境に陷り、其勢は其火の如き情操を驅りて之を激發せしめて、敢て自ら慰せんと試み、爲めに蜚語集中し、多年輕薄兒の揶揄を蒙りしも、英子女史は敢て溝瀆に縊死する如き痴婦の態に傚はす、自ら「妾の半生涯」なる一小冊子を草して、直白諱ます、頗る歐米女子の風ありと謂ふべし、然らば則ち女史にして、此の「世界婦人」の刊行者たるに於て、提唱頗る其人を得たるを認む、乃ち余は敢て之を江湖に紹介するに躊躇せす、更に女史が歐米女子の愛涙俠血に一籌を輸せざるの、一大奮興あらんことを祈る者なり

○板垣伯と坂崎師

福田英

意氣天をも突かんばかりの燃ゆるハートを抱いて鄕關を出でにし吾が若かりし時よ、今は二十餘年の昔となりぬ、さすがに初旅のうら悲しく、賴りに思ふ恩師の如何に吾を過し玉ふらん、若し吾が願いの叶はずば、何の面目ありてか再び父母に見へんかと、思案に胸も兎つおいつ、さなきだに旅費とても限りある身の、若心の程は如何なりしぞ、實につらかりし此の刹那こそ、即ち吾が世の舞臺に出づるの首途なりけれ。

板垣伯は吾が初旅のつらかりし時、いとも深き温情を以て吾を導き玉ひし唯一無二の恩師なり、若し伯なかりせば、吾は其時如何になり行きしならん、伯の温き御手に倚りて、吾は恙なく東都に學に遊びぬ。而して又た無上の良師を得たり、坂崎斌氏は即ち其人なりき、今此恩義深き高齢の伯と坂崎師と、共に吾が此の小さき企てを喜び玉ひ、且つ吾が獨力を憐れみ玉ひ、玆に本誌に尊き寄稿を賜はりぬ、吾れ今ま新らしき事業に身を投じながら、舊き懷ひはいや增すぞかし。

●婦人シャツの縫ひ方

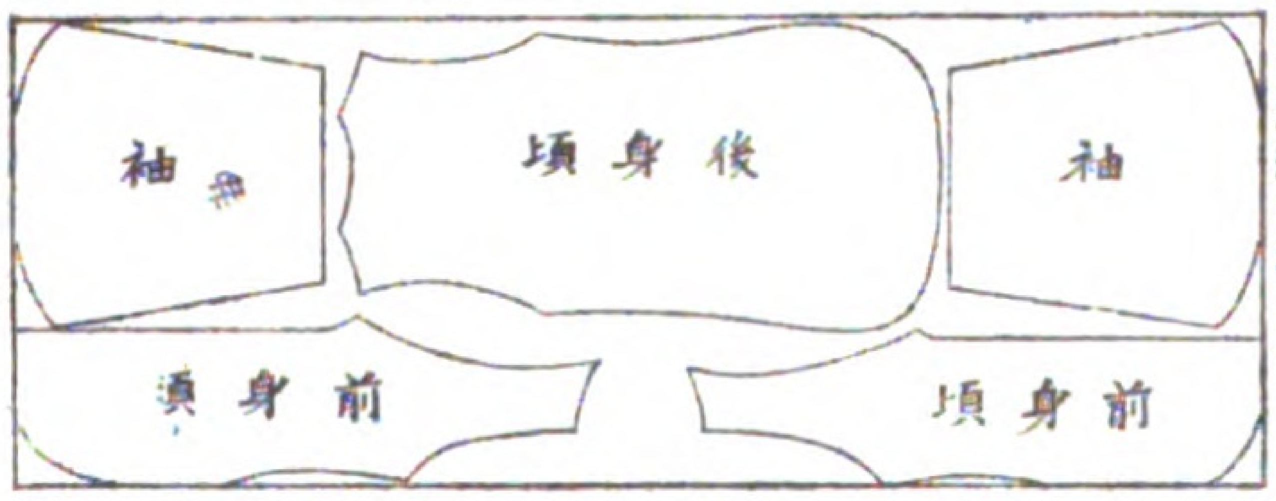
軍地うら

如何にせば婦女の天賦性を發揮すべきか、之れ私共の何事を於ても考ふべき大切なる問題でありますが、幸にも本誌はそが要求に應ぜんとの大なる使命を帶びて居られます、どうか私共が眞生命に至るの燈たらん事をひたすら祈る者であります。

私は裁縫の術につき、申上る事となりました、何か新規な物ともと思ひましたが、凡て實用を主とするのが本誌の旨ですから、只今は婦人シャツの裁縫を申上ます之は外部に少しも顯はれずして至極寒さ凌ぐに適して居ます。

凡て西洋服は和服と違ひまして、割出しによつて裁ます故、未だ練習の積ざる內は模型紙によつて裁切り、次に用布裁方に係りし方よろしくあります。

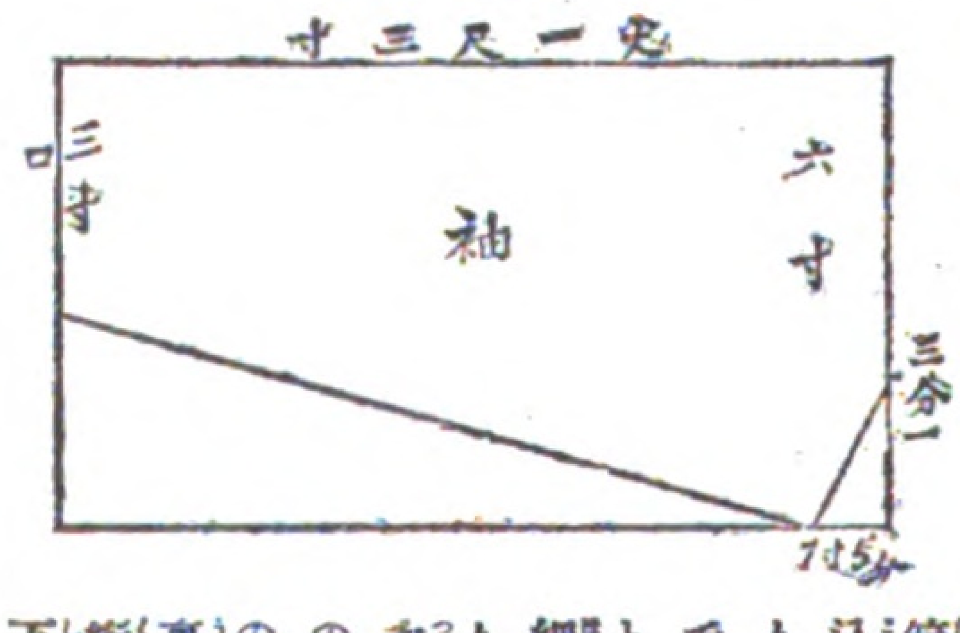
第一圖



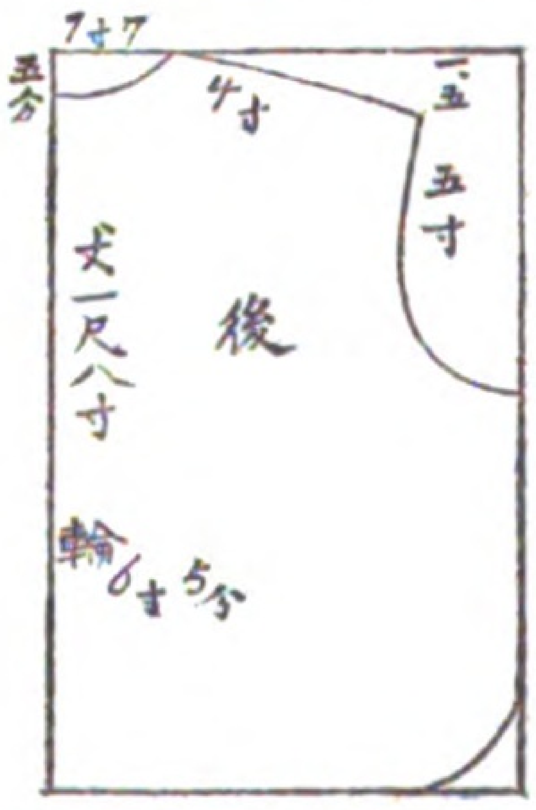
第一圖は二尺巾のフランネル三尺四寸の用布を以て婦人シャツ裁方總圖解です第二三四圖は分解圖第五圖は仕立上りの婦人シャツ裁方順序

第一裾切込の處より切込まで、後前とも極く細くまつり絎け、次に上前の方は標の處より裏に折て絎け付け下前の方は五分程持出し（ボタンの懸る處）で絎けます、次は前後の肩を合せ折は前に返して絎付け、次に袖付は折を身の方に返してまつり絎にし、夫より袖下より身脇縫を縫ひ後身に返し絎付け、袖口は極く細く絎け衿は斜の切巾五分の者を表に付け、裏へ返して絎付け、前に三つ程穴を明け穴カヾりをし、ボタンを付けて出來上ります。

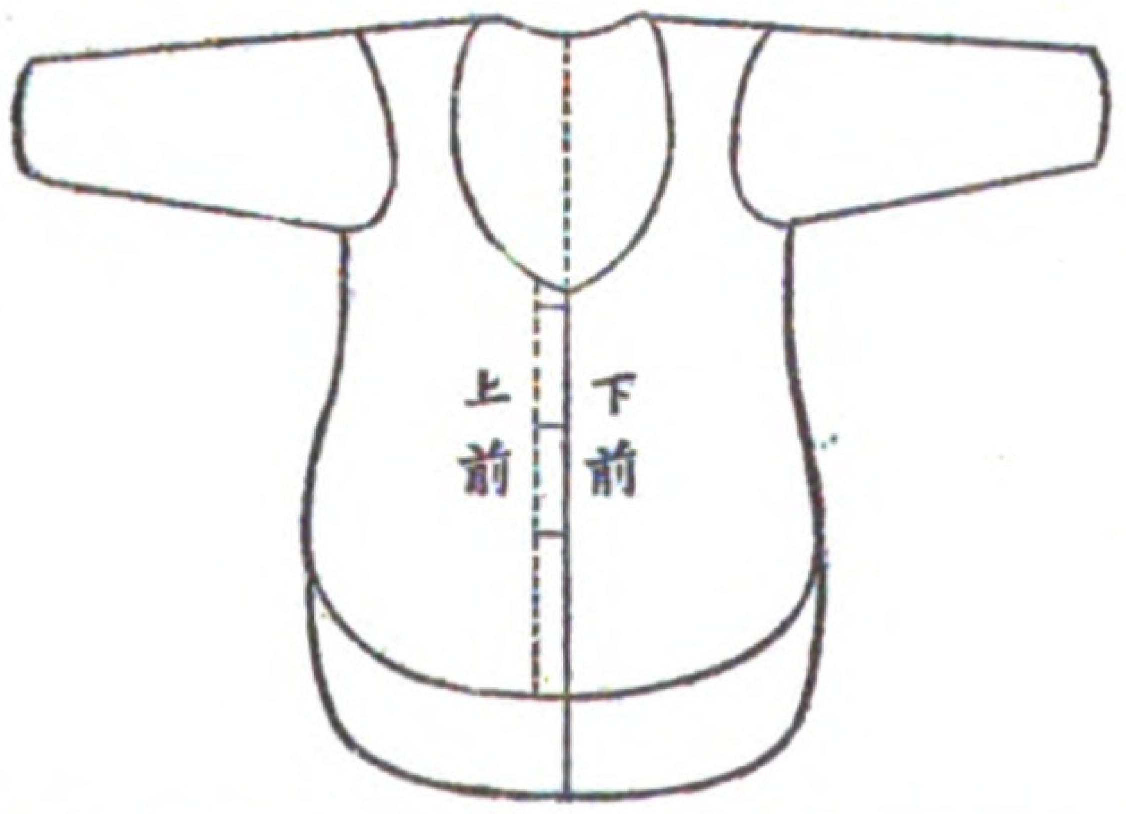
第二圖



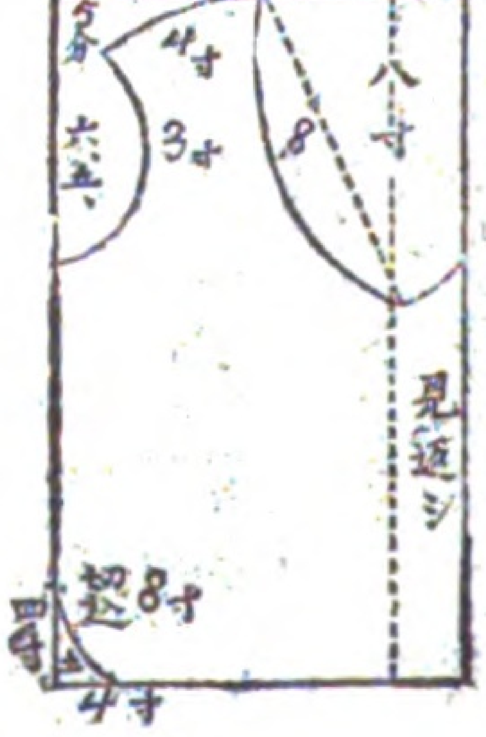
第三圖



第五圖



第四圖



●婦人の天職

（六頁より）

（四）

之を要するに、婦人の特殊なる天職は只だ姙娠、分娩、哺乳の一事に在り。而もそは决して婦人生涯の全力を要求する者に非す。婦人は此の特殊なる天職の外に、男子と相並んで一般人間の天職を果さゞる可らす。但し小生と雖も、全く男女性情の差異を認めざるに非す。婦人が其の生殖作用の分擔より來る必然の結果として、生理上或點に於て男子と異なる傾向を生ずるは、否む可らざる事實なるが如し。小生は今日の男女間に見るが如き性情の大差異は、社會の制度習慣より來れる一時の現象なりと信ずれども、別に男女性の根本に於て多少の差別あるべきは、亦た之を認めざるを得ざるものあり。故に男子が生活事業を分擔し、婦人が生殖事業を分擔し、それ以上に以て男女共に他の高尙なる諸事業に當るの時、女子が其の自然の性情に基づきて、或は多く美術に赴き、或は多く音樂に向ふと云ふが如き、男子に對して興味ある差別を呈すべきは、小生の常に想像する所なり。されば此點に於て、婦人の天職は美術に在り、婦人の天職は音樂に在りなど〻も稱するを得んか。但しそは將來の自由社會に於ける自然の發展に見て、而して後初めて言ふべきの事にして、今日區々に之が豫想し、斷言す可らず。殊に男子が其の男子的偏見（よし自らは其の偏見たる事を意識せざるにもせよ）を以て、獨斷に婦人の天職を云々するが如きは、實に許す可らざるの大罪なりと信ず。福田女史以て如何と爲す。

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

婦人の天職

堺利彦

（一）

堀田英子女史足下。婦人は宜しく婦人の天職を守るべしとは、多くの學者、文人、説教者、演説家等より我々の常に承けたまはる所なるが、其の謂はゆる天職とは果して如何なる者なるか、それがハツキリと定められざる限りは、如何に温良、貞淑、從順なる今の世の婦人と雖も、之を守らんこと頗る困難なるべし。故に小生は茲に少しく婦人の天職を考察して、「世界婦人」に獻じ、聊か足下の參考に供せんと欲す。

或人は、婦人の天職は結婚して夫に仕ふるに在りと云へり。小生考ふるに、結婚若し天職なりとせば、そは婦人のみの天職に非ずして、亦た必ず男子の天職ならざる可らず、然らば何も取り立て丶婦人の天職といふ程の事なく、只だ是れ人間の天職、動物の天職と云ふべし。然らば夫に仕ふるが果して婦人の天職なるかと考ふるに、小生は頗る其の理由を發見するに苦む者なり。人類社會の古き歴史を檢するに、母系制度と稱して女子が一家一族の長たりし時代もあり。其時代には女子の爲に特定の夫といふ者なく、子は數多ありとても其父の誰々なるやは判然せざりしなり。此邊の事に就ては石川旭山君が貴紙の別項に於て詳細に論述せらる丶よう承けたまはりたれば、小生は長々しく申上げざれども、兎にかく斯かる時代に於て、婦人の天職は夫に仕ふるに在りと云ひ得ざるは明白の事なるべし。然らば婦人が夫なる者に屬して之に仕ふるに至りしは、比較的近代の事にして、僅々數千年間の現象なり。若し之をしも天職と云ひ得べくんば、日本男子の天職は年寄りて隱居となるに在りとも云ひ得べし。何となれば、數百年の永き月日の間、日本の男子は年寄りて後、其の家督を悴に讓りて隱居するの風習なりければなり。そこで小生の考ふる所に依れば、隱居の風習が人間社會に於ける只一時の現象にして、遠き過去にも其事なく、現在にも既に其事なきが如く、婦人が夫に仕ふると云ふ事も、矢張り只一時の現象にして、遠き過去にも其事なく、現在には猶は姑く其事殘れりと雖も、將來には必ず消えて無くなるべき者なり。されば斯樣なる事を天職など丶稱して、強いて婦人を縛りつけんと欲するは、實に不都合極まる男子の得手勝手と云はざる可らず。

（二）

或人は又、婦人の天職は家を守るに在りと云へり。是は恰かも犬の天職は門を守るに在りと云ふに同じ。犬は元と山野に在りて自由獨立の生活を送りしものなり。其時には守るべき門といふ者もなかりしなり。後やうやく人間に壓伏せられて、家畜といふ境涯に落ちたればこそ、茲に初めて門を守るといふ役目を仰付けられたる次第なれ。安んぞ之を以て犬の天職と云ふ可けんや。婦人が家を守るも亦た斯くの如し。男子に壓伏せられて其の奴隷たるが如き境涯に落ちたればこそ、遂に斯かる迷惑の役目をも脊負はされたるなれ。天職など丶は實に善い面の皮と云ふべし。

或人は又、婦人の天職は炊事、裁縫に在りと云へり。是は略ぼ前項と同樣の説にして、亦た實に人を馬鹿にしたる話と云ふべし。昔し封建時代の武士は、米を作るは百姓の天職なりと云ひたりき。如何にも田を耕し、苗を植ゑ、肥しを汲み、稲を扱くが如き勞苦の事は、之を百姓の天職なりとして彼等の手に打任せ、自分等は大小をさし、𧘕𧘔をつけぶら〳〵として其米を取り食ふこと、武士に取りては頗る好都合なりしなるべし。それと同じく、炊事、裁縫、洗濯、掃除など、總て日常生活の面倒なることは、一切之を婦人の天職なりとして彼等の手に打任せ、自分は出入自在にして、勝手次第にほうつきあるくこと、男子に取りては頗る好都合の事なるべし。然るに或るお人よしの婦人の曰くに、料理などはドウしても最愛の妻の親切なる手に成りたる者ならでは、十分に男子を滿足せしむること能はざるべし。故に妾等は何處までも料理等の事を以て婦人の天職と思ふなりと。是れ如何にも殊勝なるお心掛と申すべし。小生なども男子の片はしであるからには、此樣なる殊勝の婦人に對し無限の感謝をこそ呈すべけれ、惡口雜言などユメ申すべき筈にはあらねど、さりとては茲に不思議なる事こそあれ。そは斯樣なる殊勝の心掛が婦人の側にのみありて男子の側に無きの一事なり。小生の考ふる所にては、料理などはドウしても最愛の夫の親切なる手に成りたる者ならでは十分に婦人を滿足せしむること能はざるべし、故に僕等は何處までも料理等の事を以て男子の天職と思ふなりと、一人くらゐは云ひだしそうなものと思ふなり。然るに天下曾て此事なきを見れば、此の料理天職説も畢竟は男子の得手勝手より婦人に塗りつけたるものにして、婦人は男子の意を迎へんが爲め、若しくは知らず識らず男子の意を受けて、遂に自ら然云ふに至りたるものなるべし。

小生の更に考ふる所に依れば、假に水を汲む事が婦人の天職なりとした處で、水道の給水栓が完成せられて、何處の家に於てもネヂ一つひねれば滾々として水が溢れ出ると云ふ場合になれば、婦人の天職は殆んど無くなつてしまふに非ずや。又假に飯を炊く事が婦人の天職とした處で、追々飯炊法が改良せられて各戸別々に竈を据ゑつくるは不經濟の甚だしきものと云ふ事になり、百軒も二百軒もが一緒になり、若しくは一町内、一村落が申合せて、大仕掛の共同飯炊所を作るの日ありとすれば、數百人の細君が數人づゝ交る〳〵飯炊當番になるとしても、僅に百日目に一度だけしか其の天職を盡し得ざる事となるに非ずや。さりとては餘りに輕少なる婦人の天職といふべし。されば炊事と云ひ、裁縫と云ふが如き、其の大部分は寧ろ器械の天職にして、決して人間の天職に非ず。今日に於てこそは、社會組織の不完全なるが故に、斯樣なる下らぬ事が人間の手仕事となり居れども、將來の進歩せる社會に於ては、大抵の面倒なる事は皆な器械の働きとなり、人間は只だ此の器械を用ゐて僅少の骨折を爲すに過ぎざる事となるべし。而して其の僅少の働きは、女子の爲すべきものとも、男子の爲すべきものとも限らず、誰にても只だ便宜に從ひて之に當るべく、女子の天職などと云ふ者は殆んど消滅するなるべし。

（三）

斯樣の事を申さば、論者或は大いに小生を責めて曰はん。汝如何に奇矯の言を爲して婦人の天職を皆無に歸せしめんと欲するも、姙娠、分娩、育兒の事に至つては、遂に之を婦人の天職に非ずと云ふを得ざらんと。如何にも然り、此事ばかりは器械で埒をあけると云ふ譯にも行かず、男子が分擔すると云ふ譯にも行かず、小生と雖も之を以て高等女性動物の天職なりと認むるの外なし。然れども小生は只だ此の一事あるが故に、世の多くの論者の如く、婦人を以て政治上若しくは社會上に於ける諸種の任務に堪へずと爲し、又は高尚深遠の學藝に適せずと爲すの理由を發見すること能はず。如何にも姙娠、分娩、育兒の事は婦人の大任務にして、生殖事業の八九分までは婦人の分擔に屬したる譯なれば、他の諸事業の八九分までは之を男子の任務とするの道理あるに似たり。然れども文明社會に於ける人生の事業は、生殖事業と他の諸事業との二種に分つべき者に非ず。小生の考ふる所に依れば、生殖事業と生活事業と、及び他の高尚なる諸事業との三種に別つべき者なりと信ず、されば婦人が其の生理上の自然として生殖事業の八九分を分擔するに對し、男子は宜ろしく生活事業（即ち直接衣食住の事業）の八九分を分擔すべし。而して二者以外、他の高尚なる諸事業は、男女の別なく各其の適する所に從つて其任務に服すべし。例へば、男子は米を作り、女子は子を產み、而して男女共に其の餘暇餘力を以て文學、美術、音樂、宗教、哲學、科學等の事を學ぶべしと謂ふなり。論者猶は或は曰はん、假に汝の言を善しとするも、女子は子を產み子を育つるに於て、恐らくは多くの餘力なからんと。今日に於ては或は然らん。然れども今日の女子が子を產み子を育つるに於て餘力なきは、恰かも今日の農夫が米を作るに於て餘力なきに同じ。若し將來の進歩せる社會に於て、農業が精巧なる器械の應用と多數人の組合とに依つて、それに從事する勞働者に多くの餘暇餘力を存せしめ得べきを信ずるならば、生殖事業も亦た周到なる設備と多數人の助力とに依つて、それに從事する婦人に多くの餘暇餘力を存せしめ得べきを信ぜざる可らず。試みに想像せよ、茲に一婦人あり、其の生殖事業に從ふの故を以て、姑く他の一切の任務を免除せられ、又其の既に稍や成長せる子供の世話を免除せられ、常に其の友人たる多くの男女の助力を受け、殊に其の分娩の際には十分なる設備と十分なる看護とを與へられ、分娩後にも哺乳の任務の外は多く他人の助力を受け、而して必要なる哺乳時期を過ぐれば、幼兒の世話も大抵は多くの人の手に分擔せらる丶事とならば、此婦人よし五六人の子供ありたりとて、決して他の高尚なる事業に從ふの餘暇餘力なきを憂ひざるべし。論者猶は或は云はん、其樣に助力を與ふる多くの友人あるを望み得べきかと。小生の考ふる所に依れば婦人は悉く多くの子を產む者に非ず。或者は僅に一二人を產み、或者は全く之を產まず。故にそれらの婦人が其の餘力を以て他の多產婦人を助くるは當然にして、亦た自然の人情なるべし。但だ今日に於ては、人皆自己の生活に忙がはしく、他を顧みるの遑なしと雖も、進歩せる將來の社會に於て、人皆生活の餘裕を生じ、人と人と競爭し、家と家と相隔つるの陋態を脱するを得ば、自然の人情は茲に油然として湧き起り、餘力多き婦人は必ず走つて多產婦人を助くべきは想像に難からざるべし。又男子の側より見れば、生殖の大事業を婦人に分擔せしめたる事とて、生活事業の餘力を以て成るべく多く婦人を助け、其の勞苦を最少の度に減せしむべきは勿論なり。

（五頁につゞく）

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

三千年前の廂髪

江見水蔭

◎廂髪を最近の流行の様に思つて居たが大間違ひだ。三千年前の日本婦人が既に此前髪の出張つたのを遣つて居る。

◎勿論其時代には、此國を日本と名けては居なかつたらう。別に名も無かつたかも知れない。然うして人種も異なつて居るので、我々の祖先では決して無い。

◎大和民族の先住民でコロボックルといふ種族、それが其廂髪といふのを遣つて居たのである。

◎其コロボックル種族の婦人が、悉く廂髪であつたかといふと、然うでは無いので、いろ〳〵異なつたる結髪をして居る中で、廂髪もあつたといふに過ぎぬ。

◎勿論、其時代に、文字が有つたか無かつたが分らぬ。有つたとしても、今讀める譯ではなく、無ければ當然讀めない譯だ。故に記錄として其廂髪に結つたといふ事は傳へては無いが、實物が今日現はれて證明して居る。

◎と云つて三千年前のコロボックルが出で來て『わら、太古でも廂髪よ』なんとお喋りをした譯ではない。

◎地の底から其實物を掘出した譯なのである。

◎實物？是必ずしも人間の骸骨を意味せぬ。掘出したのは土偶なのである。先史時代の住民が造つて遺した貝塚から出た土偶の中に、廂髪の形が有るので以てそれで其當時の風俗が證明されるのである。

◎文字の上からばかり歷史を研究するのは、甚しく危險である。如何しても考古學を加味せねば、正確なる歷史は成立しないと思ふ。

◎今より後三千年の後、現在の文字が廢滅に歸した樣な場合に、代つて起つて居る羅馬字？或はエスペラント？或は英語？其時に誰も日本現在の文字を讀み能はぬ樣になつたと假定して、其時、明治今日の廂髪を記錄し、確實に證明し得る物は何んであらうか。

◎矢張、考古學の力を借りて、繪畫なり建築なり、彫刻なり、模造品なりに賴らなければなるまいと思ふ。

◎唯併し、後の世の三千年から、明治今日の有樣を想像して、廂髪の婦人があつたといふ事だけは分るであらうけれど、其廂髪の婦人が、社會を如何に墮落さしたか——いや、墮落させなかつたか、といふ問題に就ては、如何も考へられまいと思ふ。

◎たま〳〵荏原郡下沼部の貝塚を發掘し廂髪の土偶を得て、此稿を草す。

●起てよ姉妹

HA生

滿天下の姉妹よ、卿等は永く眠りたりき。而して其の永き昏睡の間に於て卿等は種種雜多の夢を見たりし也。過去五千年の人類歷史は卿等に取つては實に長々しき夢の連續史にして、或は虛榮を夢み、或は黃金を夢み、或は權勢を夢み、又或は功名を夢みたりし也。乍併、其の夢たるや甚だ苦しき壓制の夢にして、卿等は實に永き間奴隷の惡夢に魅られたりし也。然かも迷愚卑屈なる卿等の精神と、混沌として半ば魔痺せる卿等の良心とは、此の苦き奴隷の惡夢を以て甘き光榮の善夢と感じつゝ、其の奴隷的惡夢の裡に隨喜の淚を流したりし也。然れども時は來れり卿等は今や覺めざるべからず。

姉妹よ、永き世紀の間卿等は憐れむべき社會的奴隷の苦境に沈淪したりき。纖々たる汝の黒髮は淫靡艶冶なる浮かれ男の手枕の下に亂れ、星の如き汝の明眸は淫慾と金慾の權化たる封建貴族、黃金貴族の醜面に向つて注がれ、銀の如き汝の皓齒は醜汚の塊物、眼前の空華たる黃金と權勢の前に露はれたりき、而して紅玉の如き汝の豐頰は荒淫醉々の如き貴族富豪の嗜むるに任せ、嫋々たる風姿と楚々たる細腰とは暗愚豚に等しき紈袴子弟の弄し且つ抱くに委したりき、かくして卿等は永き永き間黃金と權勢と寶玉と錦繡を以て鎖はれたる熱情なき冷けき屍を抱いて眠りたりし也。ある人生の花たる卿等の紅顏は日々に褪せ、其の豐頰は刻々に瘠す、是れ何の爲めぞ、實に黃金と權勢とを以て卿等の神聖なる肉體を左右し純潔なる貞操を汚さんとする恐るべき男子の壓制ある爲にあらずや。卿等にして精神無くんば止む、意氣無くんば止む、永遠に男子の奴隷玩弄物を以て甘んずれば即ち止む、然らざる限り、正に奮然蹶起して社會の迫害と男子の壓制とを敵として勇戰健鬪せざるべからず。

起てよ姉妹、卿等の起つべき最好の時機は今なるぞ、起つて虛榮を叱咤し、權勢を蹂躙し、功名富貴を雲烟に附して全き愛を人生に求めよ、斯の人生は之と荒寥蕭條として、寒烟低く迷ひ斷草離々たる曠野に等しと雖も、求めて已まずんば豈に此間に愛の綠地を發見し得ざるの理あらんや。愛は卿等の唯一生命也。若し愛にして得られざらん乎。汝の生涯は物質的に於て如何に滿足と愉快を贏ち得るも、ソハ全く無意義無趣味の生活にして汝の一生は恰かも綠地無き沙漠の旅行の如く、汝の一身は宛然呼吸せる美はしき屍骸に止ることを知らざるべからず。然れども愛を得る間は容易にあらず、愛は權勢と功名と富貴とを願ふ虛榮心を截絶して汝の全意氣全精神を捧げて其の半身を異性に委むる時に於て來る、愛は汝の胸中に蟠る凡ての卑念劣情を打ち捨て全く赤裸々の心を以て天地人生に對する時に來る。愛豈に何堵物に依て得られんや浮きたる虛榮心に依て得られんや。人生は求愛の旅路也、男は愛する女を得んが爲め、女は愛する男を得んが爲め、幾重の山坂を踰へ、幾多の川流を跋涉しつゝ、逗遛し、逍遙す、而して如此男と女とが各自其の理想とする半身を得たる時に於て人生の全き意義は成る也、平和此處より生れ、幸福此處より生れかくして完全圓滿なる社會此處に成る。所謂る婦人解放とは黃金と權勢の壓力下に哭泣しつゝある女子を救ふて、之れに戀愛の自由を與へ、其の自由戀愛の精神的結合に依りて得たる男女の成體を社會の單位として至上幸福なる社會を形造せんとするにあらずや。

親愛なる姉妹よ、卿等が將に門途せんとする婦人解放の戰場に於て、内外二面の敵あるを忘るべからず。内に於ける汝の敵は實に汝の虛榮心也。外に於ける汝の敵は即ち男子の壓制也。而して内に於ける汝の敵は外に在る汝の敵よりも頗る强勢と猛力とを以て汝に臨むが故に、内に於ける汝の敵と對戰する時、汝は一層汝の鋒鋩を鋭にせざるべからず、王陽明曰く、山中の賊を討するは易く、心中の賊を亡すは難しと、此れ卿等が晨に夕に蹇々服膺して忘るべからざる好個の箴言にあらずや、余は卿等の悲慘なる歷史を顧る時、卿等現在の境遇は半は虛榮心てふ卿等心中の大賊を亡す能はざりしに原因するを思ふて慨然として長大息す、卿等の前途や多難也、多難也、須らく膽を張り氣を鋭にして此の内外二面の强敵に當るの覺悟あらざるべからず。姉妹よ克く牢記せよ、卿等の使命は内に於ける汝自身の虛榮心と、外に於ける壓制男子を征服して完き愛を斯の人生に求むるに在ることを。

福田英子女史の『世界婦人』は恰かも此の二個の使命を果すべく生れたるが如し。余は時勢に先せんとする女史の烱眼に服し、而して此の好個の指導者を得たる天下の姉妹の爲に喜び祝す。

●唐詩餘葉

碧面鬼

舊苑荒臺楊柳新、菱歌清唱不勝春、只今惟有西江月、曾照吳王宮裡人　（李白）

蘇臺覽古といふ、吳王夫差蘇州に都し姑蘇臺を築き、西施と共に長夜の宴を張り、天池を掘り青龍舟を浮べ、越娃を呼び西施が爲めに水殿に遊ぶ。古へ吳王が夢の跡、今荒苑の中の春色佳ならざるに非るも、之れ已に吳宮の舊物にあらず、採菱の歌聲野に清くして吳時の盛を見たる者は唯春江の月あるのみ。後の姑蘇臺懷古く空花と成らざらんや。

越王勾踐破吳歸、義士還家盡錦衣、宮女如花滿春殿、只今惟有鷓鴣飛　（李白）

越中の懷古。越王勾踐會稽三千の士を以て吳王と戰ひて吳を伐つ、後四年大に之を破つて會より國むこと三年、吳王夫差自殺し國士悉く越に歸し、勾踐凱歌高く越中に歸る前三句は即ち越の豪華を敍べ、落句は目前荒凉の影、寂寞の狀を寫す。之れ古へを思ふて今を傷める也。鷓鴣は越鳥、後人采りて弔古の意に用ふるに至れり。

一辭故國十經秋、每見秋瓜憶故丘、今日南湖采薇蕨、何人爲覓鄭瓜州　（杜甫）

鄭審の伯父の鄭瓜を長安の東門に種ゆ、然るに杜甫も長安の人、故に秋瓜を見して故鄉を憶ふの村と爲す。されど時は春季に屬し瓜を得べからず、依て友人中に瓜を取り歸と爲せる者を憶ひ、以て悶を解ける也。首は國を去てより秋を經る者數々、毎に瓜を見て之れ故丘に屬する所なるを憶ふ。瓜を見ざる事久し、せめて我が爲めに、何人か友の鄭瓜州を覓めくれよと。鄭審は宅は南湖に在り當時に江陵に謫せられてあらず。

錦城絲管日紛紛、半入江風半入雲、此曲祇應天上有、人間能得幾回聞　（杜甫）

杜甫蜀し其宅を過ぎて其人を贈へる也。蓋し花卿蜀を鎭めて其地にある花敬亭に贈るの意、杜甫即ち此詩を作つて之を諷ぜり、僭濫の罪を諷めし意嚮外に充つ。杜甫が七言絕百を以て數ふべし、然るに當時錦城の伎女の爲めに唱せられしものは、實に此の一篇ありしのみと、以て諷刺の意挾るが如きもの ありしを見るに足らんか。

紫袖紅絃明月中、自彈自感闇低容、絃凝指咽聲停處、別有深情一萬重　（樂天）

冰輪の如き月は深空なる空に宿り、琵琶を飲んで四圍は只幽れ寂々寥々。此時靜かに紫袖の人等に向ひて紅絃を彈ず、怨か、恨か、絃は凝り指は咽んで聲盡に絕つ。別に生ずる一萬重の情中、果して何等の分子を含包するものぞ。一語の挾餘韻無限たるもの久し。

寒月沈沈洞房靜、眞珠簾外梧桐影、秋霜欲下手先知、燈底裁縫剪刀冷　（樂天）

冴へ返へれる空に月凍氷る冷、閨房の中孤影動く、月光に彩られし眞珠の如き簾外、梧桐の影蕭條たり。此夜霜下らんとするにや、孤燈明滅たる下、天涯高風征戍にある夫を憶ひて、衣縫ふ若き婦の手に剪刀は冷やかなりき、以て閨怨の意充分。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

片々錄

K K 生

◎矛盾の極は調和の極なり、少くとも矛盾なき調和は見るに足らず、調和なき矛盾は見るに耐えず、吾人は大矛盾の極と大調和の極と相一致する所に無限最大の美を感ず。

◎心虚ならざるべからず、虚なれば則ち義理來り居る、心實ならざるべからず、實なれば則ち物欲入らず（菜根譚）。心を大虚にし而かも大實にする所、則ち煉心の極致なり。煉心の極致は大矛盾と大調和と合致する所に在り。

◎君子の德は大を天地と同うすといへり。しかも詩に曰ふ德輶きこと毛の如しと、中庸にいふ、毛は猶ほ倫あり、上天の載は聲も無く臭も無し、至れるかなと。心能く其の大ぞ天地と同うして、其の小始めて毛よりも輕きに至らん。無限の大は無限の小なり、吾人は此の大矛盾の中に大調和の極美を看得す。

◎矛盾の中に調和を見、調和の裏に矛盾を見る、此くの如くにして始めて天下の理を語るに足るべし。

◎姑く之を婦人問題に就いて見る、第一吾人は只だ獨立的服從を解するの徒を理想とす。滔々たる現代の女子、今や獨立の一方に馳せて服從の美德を解せず。議論に多くして實德の見るに足るある無し。悲い哉。

◎第二、吾人は婦人の大志あるを厭はず、然れども庸德の謹みなくして能く大業を爲せしものは、古今に未だ聞かざる所。吾人は滔々たる世の婦人が、一身を提げて社會の大事に當らんとするの前、先づ一心の格正に留意せよと希望す。心正からず身修まらず家齊はず、而して國を治め天下を平かにすといふ、聖人猶ほ且つ之を難しとす、庸婦庸女其の本を修めずして終身其の末に奔走するも、竟に能く何をか爲さん。深く思ふべし。

◎第三、育兒は婦人の大業なり。蓋し吾人一生の性格は其の根本を家庭裡の敎養に得來る、故に孟母にして始めて孟子を生むべし。人若し英雄傳を繙かば、先づ其の英雄の母を見よ、英雄の女子あつて始めて英雄兒を生み來るを見ん。維新豪傑の子孫にして今日凡庸の愚人たるもの多し、一見不可思議の如くにして實は然らず、思ふに當年の豪傑何れか一代の人傑にあらざらん、しかも男子は家庭の外に奔走す、故に男子の豪傑は得て豪傑を産ますず、女子の豪傑にして始めて豪傑を產む。些々たる家庭裡の育兒、效を擧げ來らば、以て天下の大經を經綸し天下の大本を立て天地の化育を助る底の大人を出すに至る、些々たる家庭裡の育兒は即ちこれ天地の化育を助くる所以也。嗚呼小の大なるを知り、輕きの重きを知るものは、以て爲すあるに足るべし。

◎詩に云ふ、桃の夭々たる其の葉蓁々たり、この子こゝに歸ぎ、其の家人に宜しと。其の家人に宜しうして後以て國人を敎ゆべし。詩に云ふ、兄に宜しく弟に宜しと。兄に宜しく弟に宜しうして後以て國人を敎ゆべし（大學）。三千年前古人既に之を曰ふ、今人却て此の理に疎し、噫。

◎正月の園藝

久田二葉

▲梅の盆栽は蕾咲してパツチリとした顔ばせをみせて居りますが、夜中餘り寒い目に會はせるのはよくないから、なるべく暖い室か窖か土藏へでも入れてやりなさい。

▲福壽草も未だ蕾咲きで、花は矢張梅のやうにしてやらねばなりません。併しこれは東京な土藏にしてのことで中國の暖地や四國九州は其必要ありません。

▲寒蘭草、冬菊、茶梅、山茶、水仙などは咲きますが、皆寒氣に強いものですから、花を直接霜雪に當てれば能く咲いて居ります。

▲水仙を早咲きさせやうと思ひ早くからムロや温室へ取込むと大失敗です、全體寒い時に咲く草花ゆえ、咲かせやうと思ふ七日間前迄は極く清冷な場所に置くと葉が伸び過ぎんで誠によろしい。

ローヤル水ハ
最モ高等ナル最モ進歩セル最モ名譽アル化粧水ナリ
定價 拾錢 拾五錢 廿五錢

ローヤル白粉ハ
最モ改良セル最モ優等ナル無害ナル白粉ナリ
定價 拾錢 拾五錢 五拾錢

發賣元 つやぶきん 東京銀座壹丁目 佐々木商店

謹賀新年 中庸堂書店

文學士倉橋惣三君編
○基督教こどもの本
第一篇 いらくさ（大形美本） 定價六錢 郵税二錢
第二編「なみ子のいのり」以下順次刊行
どうしたら一番よく小供に基督教の精神をふきいれらるか編者は此苦心の結果として此本を編することゝなりました

矢島揖子君閲 増野咲子君譯
○シオドル物語 シー、エム、アズメン序文 定價廿り錢 郵税二錢
好評ある此書は慕少年が思ひ懸けなき事情より家に敎はる、家庭向のよき話を綴りしものなり

鈴與正一君譯
○次郎のおてがみ 定價十八錢 郵税二錢
此書も亦或る小供が家に敎に入る有名の話（「コロネロ」）を翻譯せしよき册子なり

佐藤紅緑君作
○小供の遊戯法 惡魔評定 定價三錢 郵税二錢
子供の爲めに出來たる遊戯法にして能く惡魔の懼るべき事を示し面白き者なり

東京看護婦會長大關和子著
○派出看護婦心得（實際入） 定價十三錢 郵税二錢
訂正增補三版成る 萬參に必須書

信仰 餘歡
○いさゝぼし（再版） 定價十八錢 郵税二錢
信仰的新體詩集、靈滿ちて情溢る好評嘖々

米國閨秀作家ハフテン嬢原女作 日本 河合乙彥君譯
○タニノユリ（美本） 定價三十錢 郵税不要
右は原名アツト、ザグリーン、ドラゴンの飜譯にして秋は淋しき北英の片田舍に材を取りて筆の行く所、思ひの向ふ所、山歌の響、村笛の調ならざるはなく清新の興趣掬すべき好個の田園小說なり、又た附錄として北歐の文豪ビヨルンソンの初戀アルネ子の梗概をも添へたり

發賣 東京神田區猿樂町二五 中庸堂書店

謹賀新年
東京市京橋區築地貳丁目貳拾壹番地
株式會社 國光社
電話新橋特八八、二六九三

書名	著者	定價	郵税
○埃及聖地 旅行談	青山學院敎授山田寅之助先生著	五十錢	八錢
○天國と搖籃	大谷虞君譯	四十錢	四錢
○平和の福音	佐藤繁吉君著	四十錢	六錢
○哲學の諸問題	神學士田中達君譯	三十錢	四錢
○神の觀念	神學士田中達君譯	三十錢	[illegible]
○人の運命	海老名彈正君著	二十錢	四錢
○靈海新潮	中村春雨君著	八十錢	十錢
○キリスト物語	根本正君譯	十二錢	二錢
○日々の力	根本正君譯	皮七十錢 同布五十錢 同紙三十五錢	六錢
○貧兒出世美談	根本正君譯	廿五錢	六錢
○世界最大のもの	根本正君譯	五錢	二錢
○青年立身傳	根本正君譯	五十錢	八錢
○女子立身傳	根本正君譯	四十錢	八錢
○西洋古今 名訓逸話集	成瀬正弘君著	三十錢	四錢
○ダンテ研究	柏井園君著	四十五錢	六錢
○青春の危機	渡邊勝吉君譯	卅五錢	六錢
○野百合	磐川金敎君著	廿五錢	四錢
○小供のため	疋田彰留君著	二十錢	四錢
○家庭清話	堀口彌摩吉君著	二十錢	四錢
○少年周話	岡野敬胤君著	廿五錢	四錢
○洋式 懷中日記（明治四十一年用）		皮四十錢 同布廿五錢	二錢
○聖書帖	森學君著	十五錢	二錢
○新案 國旗合せ		二十錢	二錢
○富士十二景畫帖		壹圓五十錢	十錢
○富士十二景畫葉書（十二枚入）		六十錢	二錢
○舶來泉筆		二圓より十圓迄種々	

新荷深山到着目錄出來御入用の方は二錢を添へ申入あれ

東京銀座四丁目一番地 内外書肆 教文館 電話新橋二五二六

男女競爭史論

石川旭山

△一夫一婦制は女子の屈服也△姦通と賣淫婦△多妻多夫制△モルガンの研究△エンゲルスの說△家族組織の大革命△富豪貴族は殊に女子を侮辱す

其一

名けて男女競爭史論といふ、題目甚だ不穩當ならずとせず、男女競爭史、實は男女の結合史なり、遠くて近きは男女の仲とやら、斯くも仲の善き間柄を『競爭』など、言ふ穩かならぬ文字を挾む、貞淑溫良なる御婦人方は陰かに眉を顰め給ふなるべし、然れども男女が互に天賦の淸き愛情を充實せんと欲するに當り、何時しか外界の事狀は彼等を驅つて互に階級的の鬪爭に赴かしめたり、是れ固より歷史の上に於て其の形跡を存するのみ、當時の人民が階級鬪爭を意識せるや否やは自ら別問題に屬する也。

今日の一夫一婦制度の如きは、婦人諸君が決して疑ふこと無き理想的の結合法式なるべし、然れども之を歷史の上に見る、之を以て結婚の理想を實現せんが爲に生じたる制度となすは大なる誤謬也。寧ろ男子が婦人を壓服したるの結果として生じたる制度なり、見よ、婦人諸君が常に最も嫌厭し給ふに係はらず、彼の賣婬婦と稱する憐れむべき同胞が、世界各國に群を成して男子の翫弄に委せらるゝは世界最大の事實にあらずや、又た見よ、世界各國の法律の上に於て、夫の姦通は曾て犯罪を構成すること無く、獨り妻の姦通のみが刑罰を以て過せらるゝに非ずや、あゝ賣婬婦の流行、姦通の自由、是れ實に形態を變じたる一夫多妻の制度に非ずや、而して一夫多妻の制度は實に男子が女子を征服したるの現象に外ならざる也。

抑も人類が初めて家庭を組織するに當りては、親子(及び祖父母と孫)間の結婚を爲さゞりし外、兄弟、叔伯甥姪、皆な相互に結合して雜婚制度をなせり、其の實例は布哇に於ける土着人の如き、其の實例にして、十九世紀に至りても猶は其の事實を發見したる程なりき、稍々進んで兄弟結婚を廢止し、更らに多妻多夫婚の制を現出せり、(是れ北米の發見に伴ひて研究されし所にして、モルガン氏は即ち其の最も有名なる研究者なり、氏は北米印度人(所謂ナグロ)の家族制度、社會組織を精細に研究したる人にして、殊に家族制度の變遷を以て多く經濟的原因に基くとなせるは吾人社會主義者をして深く興味を感ぜしむる所なり。)

然るに此の多妻多夫制の時代に於て、家庭組織、殊に相續制の上に一大革命こそ來れり、即ち從來は母系を中心として家を組織し、相續の制を立てしが、此時に及んで急變大革して父系を中心となすに至れり、獨乙社會主義の祖師、エンゲルス氏は、是の變革を以て女子の大なる敗北となせり。

初め人類が直接に自然界より日々の衣食を獲得して生活せる時に於ては、人は自然の儘に家族を爲せり、而して多數の男女が互に雜婚せるの結果、子と母との關係は明かにせらるゝと雖ども、子と父との關係は之を明かにする能はず、蓋し母は自ら子を懷胎するが故に其の產兒は素より他人の子と違ふ事無きに反して、其子の父は何人なるを知る能はざる也、而して社會組織の中心たりし婦人は最も權力ありし也。

然るに時代漸く進み、人智漸く發達するに及び、產業の術又た大に精巧なるに至れり、而して衣食の料は漸く多く貯蓄せらるゝに至り、而して之を作り、之を貯へ、之を護るべく、男子の腕力は漸く特別に必要とせらるゝに至り、而して又た、其の貯蓄せられし財產を子孫に相續するの問題は生じたり、然れども問題は頗る困難なりき、蓋し、男子は其の財產の上に多くの力を費せり、從つて其の上により大なる權力を行はんとするは當然なり、而して自己の死後、其の財產を何人に相續せしむ可きやは直ちに生ずるの問題なり、男子は必ず、自己の意に從て之を決せんとしたるならん、然れども其の屬する家族制度は母系を中心とするを如何せん、茲に於てか、此の母系中心の法律を廢して、父系中心の法律を樹てんとするは、即ち當時の男子が切望せし所なるべし。

遂に男子は從來の社會組織を轉覆したり、女子は已を得ずして之に屈從したり、然れども女子に取りては是れ大なる敗北にして、社會にとりては、大なる革命なり、斯くて男子は漸く女子を征服し、而して茲に一夫多妻制の變形たる一夫一婦制を樹立せり、而て彼の姦通の如き、娼妓の如き一夫一婦制度の附屬として現れたり。

斯の如くにして今日は一夫一婦制度の世となれり、然れどもそは唯だ形式的の名目のみ、事實に於ては猶は一夫多妻なること前述の如し、殊に今日の富豪、貴族の社會に於ては、多妻ならざるものは殆んど稀れなりとす、今日の社會に於て一夫一婦制を守れるは唯だ中等以下の人民のみ、自ら勞働して自ら家庭を成すの人民のみ。

財產の私有は家庭組織に大革命を齎せり、而して婦人をして大屈辱を蒙らしめたり、而して財產のより多き貴族、富豪は、より多くの侮辱を現に女子に加へつゝあり、今ま婦人をして此の屈辱より脫せしめんとする、途は唯だ一あるのみ、財產私有制度の禁止、即ち是れなり。

然れども余は茲に此の主張を爲さんとするものに非ず、余は唯だ過去に於て婦人が經驗し來れる境遇の變化を序し、以て婦人今日の境遇が、決して天理人道に合せざる所以を明かにせば足る也、次號より逐次稍々細論を試むべし。

匝古愛子著　(再版)

伏屋の曙

(寫眞版數葉入)　定價四拾錢　郵稅四錢

○萬朝報曰く　著者生れて漸く父を知らず母を亡ひ、貧に逐はれて萍移、蓬轉、纔かに虎口を逃れて僅かに其節操を保ちしも病膏肓に入りて起つこと能はず妙齡の身を病蓐に呻吟すること數年漸く基督教徒の慰安を受けて神を知り、靈界頓に光明を加ふるに至り、獨のみの動くを幸ひに病中に認めたる其半生の哀史は即ち是れ題は「影噺ふいぶせき賤が伏屋にも惠の光照す曙」てふ自作の歌に取る其文未だ世を驚すの價なしと雖も亦流麗にしてイヤミなく影琢を加へざる處却て其眞を見るに足る三十篇の雜文四百四十二首の和歌三十四句の俳句多くは斯の病才媛が神を讚美せる廟中の聲にして誦すべきもの少なからず病紅葉、病子規、病兆民、病齋、病梁川等に加ふるに今又斯の病才媛を以てす天何ぞ才人に禍することの爾かく多き

石川半山著　(再版)

露國の志士　愛蘭の佳人

寫眞版入　定價四拾錢　郵稅無料

事實は活きたる小說なり!!!　十二日間の大西洋航海記、露國の志士は、其の秘密を吐き、愛蘭の佳人は、其熱烈なる血涙を濺ぐ、獨米諸國の醫師、青年、守錢奴、軍人、女詩人、那威の有志家、舟中に談話す、舞踏會あり、運動あり、演說あり、探偵あり、航海業の說明あり　全篇四十回至大なる教訓也!!!

發兌　東京々橋區尾張町　警醒社書店

東京市神田區錦町三丁目
東京瓦斯株式會社製造發賣

藥學博士丹波敬三先生發明
消毒防臭 **クレシン**　陸軍檢疫御用品

「クレシン」は東京帝國大學醫科大學衛生學教室及び東京傳染病研究所の試驗成績によりて消毒殺菌の力遙に石炭酸よりも强しと認められ且防腐の効ある大發明品にして價は僅に其三分の一に過ぎざるが故に陸軍檢疫用品に採用せられたり此廉價優秀なる內國品を以て石炭酸等の高價なる輸入品に代へ益々廣く防疫衛生の實効を奏し得んには一人一家より延て全國の利益たるべく又獸醫學博士は家畜の黴菌性腸炎撲用及厩舍の消毒用として尤も適當なるを證明せられたり。
猶蚊、蚤、東京虫其他惡虫發生の豫防として特効あり。

木材防腐 **クレオソート油**

クレオソート油は木材防腐用として効力絕大代價の低廉之れに及ぶものなくして明治七年京濱鐵道布設の際英國より輸入使用せられたるクレオソート油注入枕木は既に三十年以上を經過せるも依然使用に堪ゆるを證明せり船底、電柱、家屋の土臺、屋根裏、板塀、土藏用材、湯殿、臺所、物干、下水、樋等の濕氣を受くる木材及板等に塗布せば其保存効力頗る多くして使用せられたる個人の利益は勿論延て國家の利益なり。

一斗入一罐　一圓三十錢
二斗入一函　二圓七十錢

●クレシン及クレオソート油　販賣御望の方は本社販賣課へ御申込被下度候

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

新小説

四十年元旦號

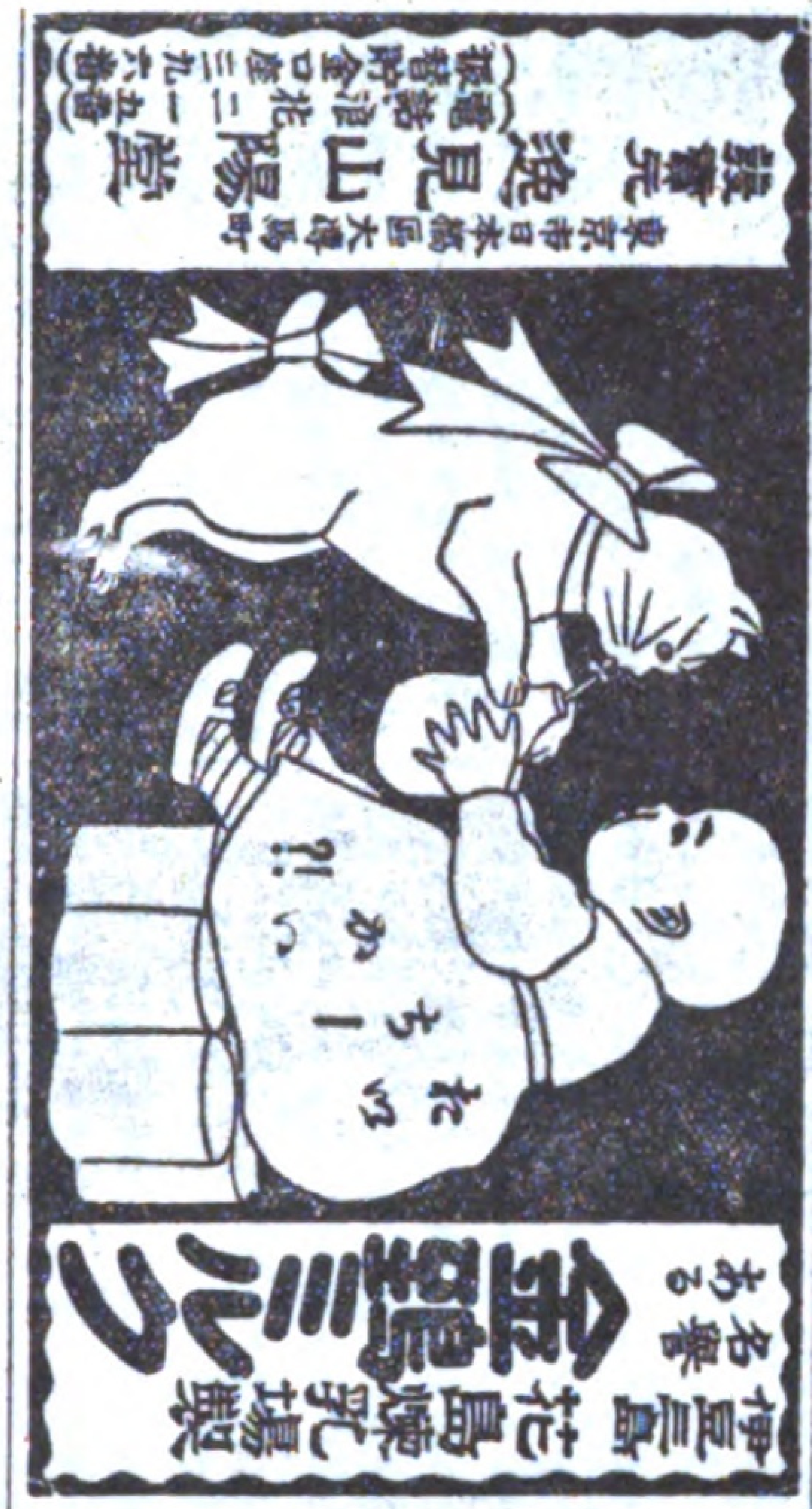
小説目次

島の聖……登張竹風氏
侍醫……藤代素人氏
わかれ際……小栗風葉氏
父親……上田敏氏
緣むすび……泉鏡花氏
テーヤー……楠本青南氏
葡萄酒……小山内八千代氏
遠き響……小川未明氏
醜婦……正宗白鳥氏
冷手……物集梧水氏
病友……小山内薫氏

附錄 石版數十度刷大「我が羊」川村清雄氏畫
右は稀世の傑作なり

●實價金廿五錢●郵稅參錢（本號に限り）●六冊前金郵稅共壹圓五拾九錢

東京市日本橋 春陽堂

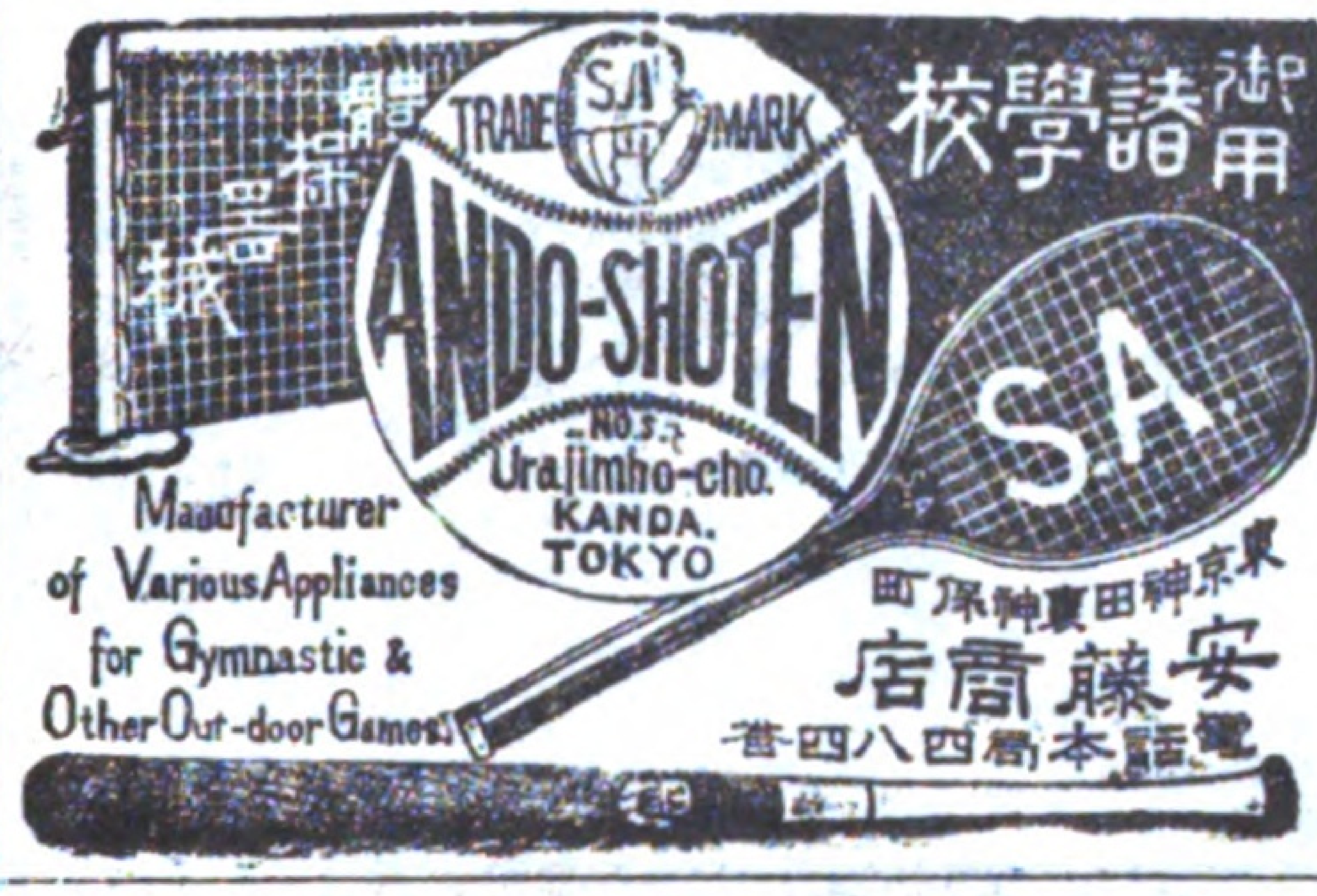


謹賀新年

●齒科治療自午前八時至午後六時●

神田區須田町廿六番地
齒科醫 吉瀨才一郎

勞働者諸君に限り藥價診察料共に御隨意晝間執業者の便利上夜間十時迄治療仕候



福田英子女史著

妾の半生涯

菊版美本肖像入

▲定價三十五錢、郵稅六錢▼

久しく品切の處第四版を發行致し候

大井憲太郎等と共に有名なる大阪事件に與せし女傑景山英子は即ち本書の著者也、彼女の幼少が鄉里の才媛として如何に嬋高かりしか、彼女如何にして大阪國事犯に與せしか、在獄三年の生涯は如何なりしか、如何にして情人と離れ、如何にして良人を得たるか、更に妻女として赤貧なる、慈母として悲哀なる、寡婦として多忙なる彼女の生活は如何なりしか、本書は、實に其の曲折波瀾、錯節纏綿せる一個の大悲劇を描ける也。

醫學士 佐々木多聞述

新化粧

長弓形新式表裝　表紙畫小杉未醒
高尙優美の美本　定價四十錢郵稅六錢

歐洲の佳人と美を鬪かはさんとする日本婦人はこの化粧上の戰術書をお求めなさい本書は醫學上衞生上あらゆる方面より化粧の本義を說き歐米の化粧術を日本婦人に應用するの手段を述べたもので化粧品は一々成分から說き起し善惡の鑑別法まで注意してあります化粧臺の上には必ず一本を備へねばならぬ良書にして裝飾の用と實用とを兼ねた美術的の訂裝です

本鄉千駄木林町
發行所 日高有倫堂

木下尙江著

懺悔

懸に惱み死生に惱み功名心に惱みたる著者が始めて人生の奧義に觸れて奮然新生活に驀進せんとするに當り既往を回憶して赤情を吐露したるもの即ち懺悔の一篇となす曾て他を攻擊するに寸毫の餘地を許さゞりし彼れは今ま自ら刑罰するに及で亦た半點の容赦を與へず故に本書は著者に取て過ぎし苦悶の告白なると同時に實に新に挑まんとする難戰の宣言也僞善なる社會よ一條の荆鞭既に汝の頭上に落下し來れるを見よ

定價卅五錢郵稅六錢

發兌元 東京京橋區五郞兵衞町 金尾文淵堂

發賣元 東京堂。上田屋。北隆館。東海堂。文榮閣。大阪杉本。京都東枝。久留米菊竹等

謹賀新年

體育用器械、樂器
標本、模型、敎育品
陳列室落成

本鄉森川町大學赤門前
美滿津商店

大懸賞附きの本誌を求めざれば一年の悔あらむ

婦人世界

正月元旦發行　毎月一回二册　第壹號　一册拾五錢　郵稅壹錢五厘　半年分九册　郵稅共壹圓一錢　壹年分七十册　郵稅共壹圓七拾五錢

口繪　新年の松（彩色畫）村田丹陵◎彩色畫踏見花嫁◎新年の松（和歌）三輪田眞佐子◎新婦寫眞

娘時代の生活法　村井弦齋

△美の神とは如何なるものぞ
△外形の美は如何にすべきか
△顏は如何に美しくすべきか
△眼は如何に美しくすべきか
△口元は如何に美しくすべきか
△鼻は如何に美しくすべきか

◎九十歲の長壽を保てる祖母の健康法（藤田淸子）

◎新年大懸賞珍附錄（本號にあり）見落す勿れ！後るゝ勿れ！

△賞品（婦人持十八金金側懷中時計△十八金寶石入金指輪△鼈珍帶側△白縮緬△銀側懷中時計△金帶止△絹張洋傘△化粧品千餘點）

◎かるた取りの名人實驗談
◎顏の形ち髮の結び方　△丸顏と長い顏に似合ふ髮
◎結婚前の注意……（醫學博士）三輪田元道
◎西洋婦人の出產（山田[illegible]）
◎感心な女生……
◎小說　見合ひ……村井弦齋

◎肥滿を治する奇法　醫學博士 木村德衞
◎婦人の時衣は何ういふのが似合ふか
◎弦齋夫人料理談　△汁粉と鍋煮△鱧鮭の料理
◎玩具の選び方……加藤博士
◎名家結婚年齡調べ
◎少女欄（少女諸君のお相手）

東京市京橋區南紺屋町　實業之日本社（郵便振替貯金口座六番）（全國賣捌書店）

◎定價　△一部四錢五厘、十部四十二錢、二十部八十錢
△申込は總て前金の事、△郵稅當方持

東京府豊多摩郡淀橋町角筈七六二番地
編輯兼發行人 石川三四郎

東京府豊多摩郡淀橋町角筈七六二番地
印刷人 神崎順一

東京府豊多摩郡淀橋町角筈七三八番地
發行所 世界婦人社

東京市京橋區築地二丁目廿一番地
印刷所 株式會社 [illegible]

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY